



第61回 二葉祭 新たな形式で開催

二葉祭
特集号

9月も下旬となり、令和2年度も6ヶ月が過ぎようとしています。時間というのはただでさえ早く過ぎていくように感じますが、学校の臨時休業措置があったため、今年度はさらに時間が経過するのが早く感じられます。



22日は、「秋分の日」でした。「秋分の日」は、「夏至」と「冬至」の間の日で、昼夜の長さが同じで、太陽が真東から昇り真西に沈みます。太陽の南中高度は、一番高い「夏至」と一番低い「冬至」の真ん中になります。彼岸の中日にあたり、「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉の通り、秋らしいさわやかな気候になってきました。

また、28日には甲府地方気象台より、午前9時頃富士山の初冠雪を確認した、という発表がありました。平年より2日早く、昨年より24日早い初冠雪となりました。富士山を見慣れている山梨県民にとっても、山頂に雪をいただいた姿は、まさに富士山、という名にふさわしい姿と感じる人も多いのではないかと思います。

このように、季節の移ろいが感じられる9月17日に、

「第61回二葉祭」を開催しました。今年度は、新型コロナウイルス感染症への感染防止対策を行いながらの開催なので、例年であれば2日間の日程で、1日目に「文化部門」2日目に「体育部門」を実施していますが、取り組み期間中及び開催当日の3密を避ける等の感染防止対策のため、取り組める内容と時間が限られ、二葉祭の内容と時間を大幅に見直した結果、「体育部門」は、熱中症予防のため午前中に校庭で「密集」と「密接」を避ける配慮をした種目で行いました。「文化部門」は、午後「密閉」「密集」「密接」を避けながら、また、熱中症予防のためにWEB会議アプリを使い、各教室をオンラインでつないで行いました。

具体的には、「体育部門」では、①縄跳び（1，2，3年）



②選抜リレー（ブロック種目）③台風の目（ブロック種目）
 ④全員リレー（1，2，3年）を行いました。どの競技も新型コロナウイルスの感染防止の観点から、並び方や競技のルール等を工夫したもので、「密集」と「密接」について特に配慮した種目を実施しました。体育部門が始まると、全校生徒がこれまで貯めていたエネルギーを一気に放出するかのような、躍動感あふれる姿が見られ、その迫力と生き生きとした楽しそうな笑顔に、見ている方は圧倒されながらも共に充実した時間を過ごすことができました。

「文化部門」では、生徒会本部役員がいる教室と各教室をオンラインでつなぎ、エアコンが効いた教室内で、各学年の発表や吹奏楽部の発表を視聴し、生徒会本部役員とのやり取りはWEB会議アプリを使い、教室の生徒も参加できる双方向通信の形式で行いました。

さらに、WEB会議アプリを使いながら、二葉祭ポスターの最優秀賞受賞者の発表や全校制作の披露、美術部の作品の紹介などを、生徒会本部役員が操作するスマートフォンを通して、各クラスにリアルタイムで配信しました。

生徒にとっても職員にとっても初めての試みですので、準備期間中に戸惑うことも多々あったと思いますが、生徒会本部役員と3年生が学校の中心となって牽引しました。

二葉祭当日は、感染防止と熱中症対策のため、全校生徒が各教室に分散しながらも、同じ内容を共有し全校で楽しめる二葉祭を創りあげてくれました。まさに、創りあげる、という表現が当てはまる「新二葉祭」といっても良い、創意あふれる催しとなりました。北東中生徒の発想の豊かさと実行力に驚かされた二葉祭でした。

今年度はここまで、行事らしい行事をほとんど実施できずにいたので、子どもたちの意欲と行事を全校で実施できる喜びに満ちあふれた時間を、全校で共有することができとてもうれしく感じました。全世界が同じ状況に直面していますが、一日も早く子どもたちが全力で活動できる時が戻ることを、日々祈るばかりです。

